

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2013年2月4日月曜日 13:01
宛先: tone-plan3@ktr.mlit.go.jp
件名: 目標流量17000立方米毎秒について

利根川・江戸川河川整備計画（原案）意見募集 事務局宛

以下に意見を申し上げます。

41 頁 4.1 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標に関して

「河川整備計画原案は流量確率 1/70~1/80 の目標流量 17000m³/s が前提になっています。この数値は利根川の治水安全度 1/200 の基本高水流量 22000m³/s に基づいています。

総合確率法に基づいて、主要 62 洪水のピーク流量群について任意のピーク流量における雨量群の年超過確率の平均値がそのピーク流量の年超過確率に等しいとして、基本高水流量 22000m³/s が決定されています。本来計画雨量の 336mm/3 日におけるピーク流量群の平均値の年超過確率を 1/200 とするのが正しい計算法です。

主要 62 洪水の R-Qp 図から試算したところ、治水安全度 1/200 の基本高水流量は 19000m³/s 程度になります。それから流量確率 1/70~1/80 のピーク流量を計算すると、目標流量は 14500m³/s 程度になります。

主要 62 洪水の R-Qp 図から計画雨量 336mm/3 日におけるピーク流量群の平均値を計算してみてください。同時にカスリーン台風の推定雨量 308.6mm/3 日におけるピーク流量群の平均値も計算してみてください。統計的に発生確率の高いカスリーン台風の推定ピーク流量が求められるはずですが、単一イベントとしてのカスリーン台風の洪水の推定流量 21100m³/s の信頼性はありません。」

以上

[REDACTED]
〒 [REDACTED]
長野市 [REDACTED]
Tel: [REDACTED]
78 才
[REDACTED]
男性

2013.02.05

総合確率法の間違い（利根川・江戸川河川整備計画原案へのパブコメに関して）

1. はじめに

昨日以下のパブリックコメントをメールでお送りしました。

『利根川・江戸川河川整備計画（原案）』意見募集 事務局宛
以下に意見を申し上げます。

41 頁 4.1 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標に関して

「河川整備計画原案は流量確率 1/70～1/80 の目標流量 17000m³/s が前提になっています。この数値は利根川の治水安全度 1/200 の基本高水流量 22000m³/s に基づいています。総合確率法に基づいて、主要 62 洪水のピーク流量群について任意のピーク流量における雨量群の年超過確率の平均値がそのピーク流量の年超過確率に等しいとして、基本高水流量 22000m³/s が決定されています。本来計画雨量の 336mm/3 日におけるピーク流量群の平均値の年超過確率を 1/200 とするのが正しい計算法です。

主要 62 洪水の R-Qp 図から試算したところ、治水安全度 1/200 の基本高水流量は 19000m³/s 程度になります。それから流量確率 1/70～1/80 のピーク流量を計算すると、目標流量は 14500m³/s 程度になります。

主要 62 洪水の R-Qp 図から計画雨量 336mm/3 日におけるピーク流量群の平均値を計算してみてください。同時にカスリーン台風の推定雨量 308.6mm/3 日におけるピーク流量群の平均値も計算してみてください。統計的に発生確率の高いカスリーン台風の推定ピーク流量が求められるはずですが、単一イベントとしてのカスリーン台風の洪水の推定流量 21100m³/s の信頼性はありません。」

以上』

このパブリックコメントについて、詳細な説明を以下にいたしますので、趣旨をご理解いただき利根川の総合確率法の適用を正しく実施されることを希望いたします。このままでは関東地方整備局が折角開発した総合確率法の有用性を損なったままになります。

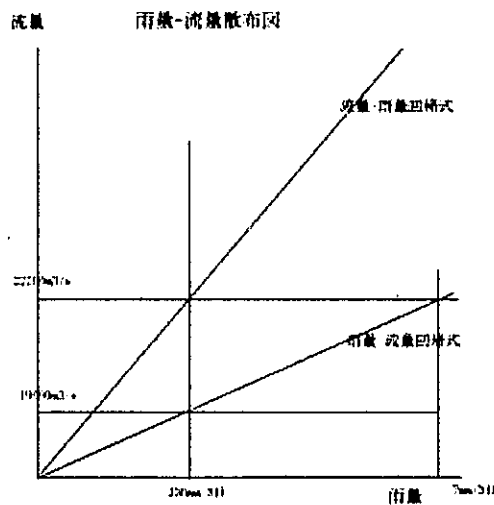
2. 利根川の総合確率法

(1) 原理的には適切な方法である

貯留関数法で雨量から流量を計算する際に、利用するパラメータの頑健性が十分でないので、単一イベントの洪水について降雨から流量を計算しても正しい流量は得られない。したがって数多くの洪水サンプルを対象に流出解析し統計的な検討を加える必要がある。そのために、多くの降雨について雨量と流量の関係を求め、それから任意のピーク流量の年

超過確率を求める方法は適切である。

関東地方整備局が日本学術会議流モデル・基本高水評価検討等分科会の回答を得て、主要 62 洪水の雨量と流量の散布図を求め、その散布図から治水安全度 1/200 に見合う基本高水流量を求めようとする試みは原理的には適切である。



上図は雨量と流量の散布図 (R-Qp 図) から、雨量・流量の回帰式と流量・雨量の回帰式を表す模式図である。主要 62 洪水の雨量と流量の散布図において、任意の雨量における流量群の平均値をプロットすると模式図の雨量・流量の回帰式になる。一方任意の流量における雨量群の平均値をプロットすると模式図の流量・雨量の回帰式になる。この模式図では回帰式は直線で表現しているが、実際は曲線になっている。しかし考え方は同じである。

(2) 利根川の総合確率法は流量・雨量の回帰式を採用している

利根川の総合確率法では、任意の流量における雨量群の年超過確率の平均値はその流量の年超過確率としている。具体的には、ピーク流量 22200m³/s の雨量群の年超過確率が雨量 336mm/3 日に相当する 1/200 であるから、ピーク流量 22200m³/s の年超過確率は 1/200 であると決定している。

この手法では流量・雨量の回帰式を利用していることになる。しかし主要 62 洪水の雨量と流量の散布図においては、模式図の雨量・流量回帰式が正しい雨量と流量の関係を与えるものである。任意の雨量における流量群の平均値の年超過確率はその雨量の年超過確率の等しいとする関係を表しているのである。具体的に主要 62 洪水の散布図から試算すると、雨量確率 1/200 の雨量 336mm/3 日のピーク流量群の平均値は 19000m³/s 程度になる。この計算によると、治水安全度 1/200 における基本高水流量は 19000m³/s 程度である。

雨量・流量回帰式を使うべきことは、雨量から流出計算して得られたピーク流量について、統計的な考察を加えていることから明白である。流量・雨量回帰式は流量から雨量を計算し

た場合の流量と雨量との関係に統計的考察を加えることになる。

(3) 流量・雨量回帰式は雨量・流量回帰式の逆関数である

模式図の流量・雨量回帰式は雨量・流量回帰式の逆関数である。雨量・流量回帰式から得られた雨量と流量の関係は、逆関数である流量・雨量回帰式から得られる雨量と流量の関係とは一致しない。この簡単な関係が案外理解されていないで、逆関数から得られた雨量と流量の関係が元の雨量・流量回帰式から得られた雨量と流量の関係と一致していると考えるのは間違いである。

したがって任意の流量における雨量群の年超過確率の平均値を流量の年超過確率とした関係と、任意の雨量におけるピーク流量群の平均値の年超過確率はその雨量の年超過確率とした関係とは同じにはならないのである。

(4) 逆関数の関係と逆推定の関係を混同している

関東地方整備局は、雨量・流量回帰式の逆推定と逆関数の関係を混同しているようである。雨量・流量回帰式の逆推定とは、この回帰式で流量から雨量を求めることで、逆推定は間違いではない。逆推定と逆関数の関係を混同して、流量・雨量回帰式から雨量と流量の関係を求めて雨量・流量回帰式からの雨量と流量の関係と同じであるとするのは間違いである。

(5) 分科会の説明

分科会の総合確率法の説明は次の通りである。「各洪水ピーク流量に対して、様々な降雨波形に対応してその洪水ピーク流量を生じる降雨総量の超過確率（すなわちその降雨波形を条件として与えたときの洪水ピーク流量の条件付き超過確率）を算定して、その超過確率と降雨波形の生起確率との積を求め、すべての降雨波形にわたって加算して、洪水ピーク流量の超過確率を求めている。」

この説明において超過確率は新しい「河川砂防技術基準 調査編」の定義にしたがって従来の年超過確率と読み替える必要がある。降雨総量の年超過確率に降雨波形の生起確率の積を求め、すべての降雨波形にわたって加算して洪水ピーク流量の年超過確率を求めることになる。しかし降雨波形の生起確率は実際には求め得ないので、この説明通りに計算して洪水ピーク流量の年超過確率は求めることはできない。

ここで降雨波形の生起確率はすべての降雨に関して等確率として、降雨の数を N とすると $1/N$ が降雨波形の生起確率になるので、積和は $(1/N) \Sigma$ 降雨総量の年超過確率となり、結果的には利根川の総合確率法、任意の流量における雨量群の年超過確率の平均値が流量の年超過確率を求める方法に一致するとの解釈ができる。

しかし利根川の総合確率法は雨量・流量回帰式からの雨量と流量の関係を求めていないので、正しい計算ではないのは繰り返し述べた通りである。

なお降雨波形の生起確率を雨量確率で置き換える方法を、分科会は「各降雨波形に対応し

て、洪水ピーク流量の確率的変動を与える主要因は降雨規そのものであって、」と示唆しているが、そのような方法でもピーク流量の年超過確率は計算し得ない。詳細は省略するが相模川の総合確率法と同じ計算をすることになり、この方法でも正しい値は得られない。思うに総合確率法の説明を関東地方整備局は分科会に十分していなかった、分科会の理解が不足していたようである。降雨波形の生起確率なる概念が持ち出された点は特に分科会の独走であったと思う。具体的に計算に利用可能な数値表現がない定義である。

(6) カスリーン台風の洪水のピーク流量の推定

カスリーン台風の洪水のピーク流量について、降雨量を 308.6mm/3 日として貯留関数法で 21100m³/s であるとしているが、採用したパラメータが適切である確証はない。一番確実推定法は主要 62 洪水の雨量と流量の散布図において、雨量 308.6mm/3 日におけるピーク流量群の平均値を求めることである。

3. 旧モデル（現行モデル）による主要 32 洪水のピーク流量群の平均値

既に旧モデルによる計画雨量 319mm/3 日まで引き伸ばした主要 31 洪水のピーク流量群の平均値は、八ツ場ダムの洪水調節量の計算で求められている。平均値は 17971m³/s になっていた。この結果旧モデルで計画雨量 319mm/3 日の場合の治水安全度 1/200 の基本高水流量は 18000m³/s 程度であると言える。カスリーン台風の洪水の推定ピーク流量も 18000m³/s 程度であると言える。ピーク流量に及ぼす雨量の影響が線形であるとする、計画雨量が 319mm/3 日と 336mm/3 日を考慮すると、 $18000 \times (336/319) = 18960\text{m}^3/\text{s}$ となり、新モデルでの私の推定値 19000m³/s と整合する。

なお主要 31 洪水の八ツ場ダムの平均洪水調節量 616m³/s、既設 6 ダムの平均洪水調節量 1023m³/s、平均ピーク流量 17971m³/s と、八斗島での流下能力 16500m³/s を考慮すると八ツ場ダムの洪水調節量はきわどいところで必要である結果になる。

またカスリーン台風の洪水のピーク流量が 18000m³/s 程度であるとする、八斗島での推定流量が 17000m³/s であれば、推定氾濫量は 1000m³/s 程度になる。推定流量が 16000m³/s であれば、推定氾濫量は 2000m³/s 程度になる。推定流量が最小の 15000m³/s であっても推定氾濫量は 3000m³/s 程度である。この程度の推定氾濫量であれば捏造といわれるほどの推定氾濫量を持ち出さなくてもバランスのとれた推定氾濫量が得られる。

4. 新モデルでの雨量-流量回帰式での計算のすすめ

新モデルによる主要 62 洪水の雨量と流量の散布図において、雨量-流量回帰式を利用して治水安全度 1/200 における基本高水流量を計算することを推奨する。具体的には計画雨量 336mm/3 日におけるピーク流量群の平均値の年超過確率を 1/200 とするものである。この計算では、任意の流量における雨量群も正規分布すると考えるが許される仮定である。

より厳密な計算をするなら次のステップを取ることになる。

- (1) 雨量と流量の散布図から、任意の雨量（雨量確率）におけるピーク流量群を読み取る。
- (2) 雨量確率ごとにピーク流量群のグラフを書く。
- (3) 任意のピーク流量において雨量確率ごとのそのピーク流量の超過確率を求める
- (4) 雨量確率とピーク流量の超過確率の積を求める。
- (5) その積をピーク流量一定の条件で加算する。
- (6) 加算された値がそのピーク流量の年超過確率になる。

大変な計算になるが、計画雨量まで引き伸ばした対象降雨からのピーク流量群の平均値の年超過確率が 1/200 になる方法とほぼ変わらない結果が得られるはずである。

新モデルによる主要 62 洪水の雨量と流量の散布図からの計算結果でも、治水安全度 1/200 においておそらく八ツ場ダムは洪水調節量は期待されることになるだろう。

正確な計算で治水安全度 1/200 における基本高水流量を把握することは、ダムによる治水対策を取るか堤防の強化による治水対策を取るかのいずれにしても必要なことである。

以上

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名		[REDACTED]	
② 所		(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 葛飾区
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
4	42	<p>該当箇所写し：[特に、江戸川下流部においては、河川の堤防が決壊すれば、十分な避難時間が確保できないままにゼロメートル地帯等の低平地が浸水する事態となるなど甚大な人的被害が発生する可能性が特に高いことから、計画規模の洪水を対象とした治水対策とあわせて超過洪水対策を実施し、壊滅的な被害の回避を図ります。</p> <p>計画規模の洪水を対象とした治水対策とあわせて超過洪水対策を実施し、壊滅的な被害の回避を図ります。]</p> <p>意見：「今までにない新しい発想の対策です。敬意を表します。新発想故にこれを読んだだけでは、国民には計画内容がわからない。そこで「避難広場を設ける」と言う具体策を入れてください。」</p> <p>参考資料：私達はこの流域で10年に亘り地元町会をはじめ生徒PTA等とこの問題について考え、地域の現状・リスクの把握・避難方法などを話し合っています。「十分な避難時間が確保できない」ので、近隣のマンションが頼りですが、入口のオートロック化が進み避難できなくなります。住民要望としては堤防沿いに高台を設け一時緊急避難広場の設置が話題になっています。広場面積は地域ごとの避難人口で決まるので、スーパー堤防のような一律幅ではありません。従って、減災対策として都市計画法上の水害避難広場として位置付けて実施する。避難地を生み出すため木造を高層化する。財源がない時代なので、PIFを導入し行政が毎年「避難広場」使用料をPIF事業者を支払う。この方式なら明日から事業化の準備に入れます。</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 小平市
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 <input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
1	2	基本高水のピーク流量を22,000m ³ /sと記していますが、利根川・江戸川有識者会議の委員である小池氏は平成23年9月1日の日本学術会議において、「既往最大洪水流量の推定値、及びそれに近い値となる200年超過確率洪水流量の推定値と、実際に流れたとされる流量の推定値(17,000m ³ /s)に大きな差があることを改めて確認した」と述べています。大きな差が確認されているのに、なぜ、原案の流量値が採用されているのか、納得する説明をお願いします。	
4	8	原案では、治水安全水津を1/100とし治水目標流量を基準地点小平島において17,000m ³ /sと記していますが、2006年度の関東地方整備局が示した河川整備計画の局案では、治水安全水津を1/50とし治水目標流量は15,000m ³ /sとなっています。なぜ数年を経た現在、いまだに数値が大きく変わったのか、市民が納得する説明をして下さい。	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED] 携帯 [REDACTED] [REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>利根川水系全体の河川整備計画を立てるべきだ。 利根川水系河川整備基本方針を受けて立てるべき河川整備計画は、利根川水系全体を見た河川整備計画でなければならない。現に2006年～2008年にかけて進めていた計画は「利根川水系河川整備計画」であったではないか。それを利根川・江戸川の本川に矮小化して行うのは、八ッ場ダム建設をゴリ押しする暴挙に外ならない。</p> <p>目標流量 17000 m³/秒は過大だ。 昨年5月～6月に行われた治水安全度 1/70～1/80、目標流量 17000 m³/秒に対するパブコメでは90%以上が批判的であり見直しを求めるものだったが、当局はこれを無視した。その上で、同じ数値をもって意見を求めるとは国民を愚弄するものだ。また、9月に再開した利根川・江戸川有識者会議では目標流量は最大の争点となっていた。それに結論を出さずに以降9回連続で休会をしている。その上で何故意見公募なのか。</p> <p>首都圏の水余りは全ての水源開発を否定している。 今回の原案では八ッ場ダム建設を入れているが、首都圏の水余りはもとより小生の茨城県の水余りも深刻なものだ。現在 296 万人口で、工業用水の余剰を加えると 570 万人分の水を保有している。すでに県人口は減少期に入り、八ッ場ダム完成が予想される 2020 年には 285 万人、2030 年には 245～255 万人にも減少すると県自身が把握している。利水という視点から見ても今回の原案は承服できない。</p> <p>新規の社会資本投資は厳選に厳選しなければならない。 平成 21 年の国土交通白書は、平成 37 年以降は既設のインフラの維持費・修繕費の支出も難しいと記している。笹子トンネルの崩落事故はこれまでのインフラが耐用年数にきている何よりの証拠だ。これからは不要な社会資本投資は厳に慎まなくてはならない。無用な八ッ場ダム事業は原案から削除するべきだ。</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名		[REDACTED]
② 住所		(都道府県名) 千葉県 (市区町村名) 野田市
③ 電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]
④ 年代		20歳未満・20代・30代・40代・ <u>50</u> 代・60歳以上
		⑤ 性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ ご意見
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)
		<p>「利根川・江戸川河川整備計画(案)」について</p> <p>○この原案については、利根川、江戸川の本川についての計画であり、その支流についての策定ではないのはなぜか。</p> <p>○治水目標量の議論はどうして打ち切ってしまったのか。重要な議論であり、疑問がのこったままの計画には反対である。治水目標量 17,000 m³/秒についての疑問がだされた。しかし、実際にはこの量より小さいことも明らかになり、科学的根拠が希薄である。このようなデータを持ち出しその正当性を論じることが、あつてはならないことである。根本的な信頼を裏切ることになりかねない。正確な値を求める。</p> <p>○そもそも八ツ場ダムの治水効果をどう評価するのか疑問である。ダムの必要性ないと考える。</p> <p>○ダムの必要性よりも現実には、内水氾濫の浸水被害への対策が急がれるのではないか。</p> <p>○社会インフラの課題を抱える現在、スーパー堤防の計画は、必要だといえるのか。今後の計画には、費用は小さく効果を重要視した計画に変更すべきである。</p> <p>○さまざまな意見がある中、有識者や住民の意見を継続して求めていくことを望む。</p>

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 東京都	(市区町村名) 葛飾区	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>○ハツ場ダムは、治水効果は下流に行くほど大きく減って行くことが、国土省の資料で明らかになっています。ハツ場ダムは、利根川の河川整備計画原案から削除して下さい。</p>	

意見書様式

利根川水系利根川・江戸川利川整備計画（案）に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市	
③電話番号又 FAX番号	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見書当箇所	⑥ご意見		
年	頁		
(意見ごととできるだけ200字以内で記載してください)			
<p>藤村修元官房長官の「河川整備計画」を支持します。現在の本流のみの河川整備計画ではなく支流を含めた利根川水系全体の河川整備計画の策定を切望します。60年も出来ないでいた「ハツ場ダム」今さら急ぐことはいけません。じっくり検討し過ちのないよう結論を出してほしいと思います。</p>			

{ / }

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名		[REDACTED]	
② 住所		(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 市川市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・ <u>50代</u> ・60歳以上	⑤性別 <u>男性</u> ・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
4	4 1	下から9行目 ～左右岸バランスの確保～ → ～左右岸における安全度のバランスの確保～ [理由] 文意の明確化	
5	4 6	上から9行目 ～新技術の活用～ → ～新技術の開発や活用～	
	5 7	下から5行目 同上	
	5 9	上から6行目 同上 [理由] 自ら開発することも必要である。	
5	5 5	上から6行目 ～既存施設の有効活用～ → ～既存施設を適正に評価し有効活用～ [理由] 有効活用の前に、適正評価が重要かつ必須である。	
5	5 9	上から15行目 ～維持管理する。また、点検～ → ～維持管理する。堤防除草に当っては、洪水に強い堤防植生の維持、確保に配慮する。また、点検～ [理由] 堤防のチガヤ植生を維持、確保すれば、洗掘防止と自然植生の保全に効果がある。	
5	7 2	下から8行目 防災教育の推進への支援 → 防災教育の推進 [理由] 国は防災教育の主体の一つになるべき。 下から6行目 「～推進する。」の後に、「防災教育の実施に当っては、河川の多面的な姿が理解されるよう、環境教育との連携を図っていく。」を追加する。 [理由] 防災教育と環境教育の連携を明示すべき。	
5	7 3	下から13行目 ～関係機関と連携～ → ～関係機関、民間企業等と連携～ [理由] 水防を越えた「工事」の施工は、民間企業との連携が不可欠。	
5	7 4	下から5行目 ～について検討し～ → ～について広域的かつ長期的な視点から検討し～ [理由] 検討に当って、重要な視点を明記すべき。	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 伊勢崎市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
全体について		<p>1. 治水目標流量の議論を一方向的に打ち切って、整備計画原案を示す事は許されない。この議論は、続行されるべきだ。河川整備計画案 17,000 m³/秒は、非科学的で過大な値を算出している。科学的に算出し直し、大幅な引き下げを求める。</p> <p>2. 利根川水系全体の河川整備計画の策定作業を進める事を求める。今回原案は利根川、江戸川の本川のみを対象だが、大きな支川がいくつもあり、支川の状況は、本川に影響する。両者を切り離す事は科学的にあてはならない事なので、今回の原案を撤回して策定作業を進める事を求める。</p> <p>3. 利根川治水の喫緊の課題である提防の強化に、重点を置いた江戸川、利根川の本川、支川での洪水で破堤の危険性が各所にある事を重点にした強化工事の利根川水系整備計画を求める。</p> <p>4. 首都圏の水需要は、減少の一途を辿っており、この減少傾向は今後も続き、ハツ場ダムの必要性が、ますます失われていくので、ハツ場ダムを利根川の整備計画原案から削除する事を求める。</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 栃木県	(市区町村名) 栃木市	
③電話番号又はFAX	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	<input checked="" type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章 頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		

2・1 24 p

「意見1」 渡良瀬遊水地の洪水調節容量を増加させる・・・については、カスリン台風以降越流堤よりの土砂の流入により、河床が上昇し、治水容量が激減している。メンテナンス（掘削）が必要であり、「湿地再生計画」を早めて欲しい。

「意見2」 利根川・江戸川沿川・・・本川の水位が高い・・・については歴史的な事象として、天明3年の淺間山の噴火による河床の上昇した記載が欲しい。

2・3

「意見」 29 p

渡良瀬遊水地では・・・乾燥化が進みについては、河床の上昇も大きな原因であるので記載すべきではないか。

表5-1

「意見」 49 p 堤防の整備に係わる施行の場所

地域の安全安心を確保するためには「巴波川」堤防の強化が第一であります。遊水地の掘削土砂の活用を利根川の堤防強化と同時に進捗をお願いします。カミソリ土手といわれ恐怖感が地元にはあります。

「要望」 堤防の整備に係わる・・・について、巴波川巴波橋に観測場所を新設をお願いします。と同時に河川防災ステーションの設置をお願いしたい。

5・1・1 57 p

「意見」 八ツ場ダムの施設を建設することは本川の流量調節には最適と考えます。

5・1・2 (2) 58 p

「意見」 渡良瀬遊水地については、「ラムサ・・・」されたことや・・・湿地の再生が治水容量を回復することになるので、遊水地の本来の目的が明確に記述されることが望ましい。

6・1 77 p

「意見」 流域全体を視野に入れた・・・渡良瀬川の源泉である足尾の山の再生（足尾銅毒事件）を是非を推進して欲しい。

当地域は遊水地の成立に幾多の問題を抱えながら今日があります。歴史の重荷を背負いながらの生活です。

*すばらしい計画書です。是非進捗を期待しています。

利根川の流下バランスが、渡良瀬川り流域の巴波川の安全安心につながります。

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 習志野市 [REDACTED]	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ <input checked="" type="checkbox"/> 60歳以上	⑤性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>以下にこの計画案がなぜ賛成できないかという理由を述べます。</p> <ol style="list-style-type: none"> この計画作りについてなぜ流域住民が参加しなかったのか、従来の住民協働の発想が消えてしまった。反対の基本的な理由です。 バブル時代の土木工事偏重の計画であり、洪水制御の歴史的経験に学んでいません。立派な遊水池もつくられ、機能しているではありませんか。スーパー堤防という採算無視、流域住民や河川漁業者無視の計画は直ちに中止し、最初から出直すことです。 そもそもこの河川整備計画が非民主的なプロセスで急いで固めようという背景に問題があります。八つ場ダム本体工事着工の条件にされていることです。今回の整備計画案は二重に、非科学的であり、ムダの上にムダを重ねる計画です。 先人の賢明な業績を見るにつけ、自然の摂理に反し、次世代までツケ回すことは、現在世代に、厳しく反省を迫られている問題です。 <p>計画の細部についての意見は省かせて頂き、なぜこの計画が許せないのかに絞って意見を述べました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 千葉県 [REDACTED]	(市区町村名) 佐倉市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input checked="" type="checkbox"/>
意見該当箇所	⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
章	頁		
		<p>原案が前提としている治水目標流量の17,000 m³/秒はカスリーン台風洪水の再来計算 21,000 m³/秒を算出した洪水流モデルを使って、治水安全な1/70~1/80に相当する流量を求めた値で、カスリーン台風洪水の実積流量は15,000 m³/秒程があったにもかかわらず当時の建設省の資料によって明らかになっている。</p> <p>治水目標流量を科学的に計算して引き下げることを求めます。</p>	

[/]

(別添: 意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水準についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都県名) 千葉県	(市町村名) 佐倉市	
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満	20代	30代
	40代	50代	60歳以上
⑤性別	男性	女性	
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ2000字以内で記載して下さい)			
<p>この川が必が幹であるので大きな地震も集中豪雨などによる想定外の洪水が起きた場合の被害を最小限におさえよめるための対策が必要だと思っております。</p> <p>ダムなどの大きな河川構造施設を整備することは巨額の予算と長い年月を要する為、対策としては果敢性に乏しいと思っております。</p> <p>想定外の洪水がきたら壊滅的被害を防止できるような、川に決壊しない堤防に変えていくことが必要だと思っております。</p>			

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2013年2月23日土曜日 10:29
宛先: tone-plan3@ktr.mlit.go.jp
件名: 江戸川河川整備計画 意見募集 事務局 御中

江戸川河川整備計画 意見募集事務局 担当者さま

氏名 [REDACTED]
電話 [REDACTED]
Eメール [REDACTED]
住所 埼玉県三郷市

埼玉県三郷市の江戸川河川沿いの道路整備工事について
意見を述べさせていただきます。

防災防堤については、不勉強のため意見はないです。

これから、どのような大掛かりな工事が行われ

どのような外観になるのかは存じませんが

現在整備中の道路についての意見をお伝えいたします。

大規模なショッピングセンターなどが出来た影響でしょうか
最近とても通行量が増えた河川沿いの道ですが、
もともと細くとも2車線とは思えない幅しかないうえに
現在、塀とはいませんが、コンクリートの壁ができつつあり
走行中にとても圧迫感があります。

また、街灯も少なく真っ暗なのに

土手内に侵入するための道があり、更に細くなっていたり

わき道は低地からの侵入のため視界が悪い状況です。

せめて、道路の幅を広げるなど対応はなかったのでしょうか。

整備工事を計画する段階と現在の交通量や
整備された道路を使用する住民の使用勝手を考慮しての
道路整備工事なのでしょうか。

通るたびに疑問が生じます。

多額の工事費を費やしての整備だと思いますので

ご一考いただきたく意見いたします。

[REDACTED]

差出人: [REDACTED]
送信日時: 2013年2月23日土曜日 11:06
宛先: tone-plan3@ktr.mlit.go.jp
件名: 利根川・江戸川整備計画についてのパブリックコメント

基準点の目標流量1万7000トン/sについては過去の文献、会議録などの再検討から今大きな疑惑が生じている。国民が納得できる結論がでるまで有識者会議のなかで徹底的な議論を続けるべきである。自分が依囑しておいて議論が思う方向にすすまないから会議を打ち切るとするのは余りにも勝手すぎる。治水は100年、1000年のスケールで考えるべきものである。ハツ場ダムを早く造りたいという役所の目先の都合だけで根本的な問題が置き去りにされ、見切り発車をするための小細工（パブコメの宛先に間違っただけのスペルを使う等）が横行するようでは歴史に残るような本当の治水はできない。

静岡県森町 [REDACTED]
[REDACTED]

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 川口市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
全般	<p>意見-1</p> <p>利根川水系における河川整備計画は、現在進めている各ブロックごとに早急に策定すること</p> <p>利根川水系は、治水・利水・環境等とともに、社会環境についても多様であり、複雑であることから、各ブロックごとに河川特性・社会特性を反映した特徴のある整備計画とする必要がある。</p> <p>意見-2</p> <p>各ブロックの整備計画のうち、利根川・江戸川河川整備計画は、利根川水系の根幹をなすものであり、他のブロックに先駆け、早急に策定すること</p> <p>利根川・江戸川河川整備計画を策定の後、引き続き各ブロックの整備計画を策定すること</p> <p>意見-3</p> <p>利根川・江戸川河川整備計画は、首都圏の安全・安心を担う重要な河川整備計画であり、その整備目標は日本のトップレベルとすること</p> <p>意見-4</p> <p>基本高水 $17,000\text{m}^3/\text{s}$ は妥当と考える。</p> <p>首都圏の安心・安全の確保の為、$17,000\text{m}^3/\text{s}$ は最低条件であり、河道の流下能力、ダム等の洪水調節能力から本整備計画期間内に十分達成可能な目標である。願わくば、それ以上の洪水処理能力を期待したい。</p> <p>意見-5</p> <p>有識者会議等での意見を傍聴すると、$17,000\text{m}^3/\text{s}$ は過大だとの意見もあるが、現実に確保可能な安全度 ($17,000\text{m}^3/\text{s}$) を引き下げる事は絶対に反対である。</p>		

		<p>意見-6</p> <p>利根川水系の治水対策は、ダム・河道・遊水調節池・放水路 等が連携・分担して初めて可能な水系であり、整備計画原案に示された八ッ場ダム・上流ダム群の再編・烏川調節池・堤防 等の整備を総合的に早急に進めること</p> <p>意見-7</p> <p>施設整備にあたっては、ライフサイクルコストの縮減や長寿命化を図った整備とすること</p> <p>平成 21 年国土交通白書でも事業費の前提条件を設定して今後の状況が指摘されているが、現在議論されている国土強靱化と合わせ、整備に当たっては十分反映して頂きたい</p> <p>意見-8</p> <p>既存施設の維持管理・改築の合わせても。ライフサイクルコストの縮減や長寿命化を図った整備とすること</p> <p>意見-9</p> <p>河川整備計画の策定にあたっては、現況機能の維持管理事業・分割整備可能な事業・大規模事業についての整備バランスを考慮し、整備方針の目標に向かって段階的に整備する事。次期河川整備計画も視野に検討すること</p>
第 1 章	9	<p>意見-10</p> <p>過去の主な洪水に記述について、各洪水時における特徴的な水防活動を列記してはどうか</p>
第 2 章	22	<p>現状の課題で、水防活動の弱体化がある。指摘しておくべきと考える。</p> <p>異常洪水対策も含め、洪水耐力の低下は課題と考える</p>
第 1 章	16	<p>意見-11</p> <p>過去の渇水について、渇水対策協議会の決定事項として、取水制限率が定まり、各利水者もそれぞれに対応した事を記述してはどうか</p>
第 2 章	26	<p>渇水対策協議会での取水制限と、河川管理者のダム運用（河川流量の確保）が渇水対応の重要な要素であり、利水者の取水制限対応能力への課題（有識者会議での岡本委員の指摘）等が指摘されている。相対的に渇水耐力の低下につながる事からダム運用等のよりきめ細かな低水管理が求められる。そのためにも八ッ場ダムの早期完成が必要である。</p>

第2章	26	意見-12 暫定豊水水利権については、他の安定水利権を保有している利水者の協力（好意）のもとに、既設ダムの恩恵を受けて取水が可能である事を記述して頂きたい
第4章	41	意見-13 河川整備計画にはについては、必要に応じて（新規事業、新たな考え方に基づく整備等）、柔軟に改定して事業実施が可能な記述ができないか。 河川整備計画は、河川整備方針の沿って計画的に河川整備を行う内容が示されているが、今後20~30年の間には、社会情勢等新たな課題も想定される。段階的継続的に整備を行う為の様々な調査及び検討を行う事となっているが、さらに、必要に応じて改定をしながら進める必要があると思う 今回の河川整備計画が策定されたことに安心せず、次の展開を考えていただきたい
第4章	44	意見-14 流水の正常な機能を維持するため必要な流量を安定的に確保する事は必要であるが、さらに、河川流量の変化などの、より積極的な流量管理の方向性等が記述できないか 定められた流量が一定で確保されていれば満足されるものではなく、ときどきフラッシュ等、変化が必要であり、そのような管理の可能性が示せないか
第5章	46	意見-15 堤防の整備は、断面確保を基本として実施していただきたい 堤防は基礎地盤や周囲の状況と一体とした構造物である。しかし、堤防からは基礎地盤や周囲の状況を選択することができない。そのため、柔軟に対応可能な土構造物を基本として整備されてきた。安易に特殊堤防（矢板、連壁）は避けるべきである。
第5章	51	意見-16 河道掘削（河床安定）、江戸川流頭部、各調節池諸元は各機能は密接に関連する事に留意していただきたい
第5章	56	意見-17 内水対策については、排水先の河川の状況が重要であり、本川に排水する場合には、下流に悪影響が及ぼさないよう、例えば、上流において内水排水量に相当する流量調節機能の確保等の対策が必要である。ダム・調節池等も内水対策を行う前提となる。

第5章	57	<p>意見-18</p> <p>河川環境の整備と保全については、過去、高度経済成長期を乗り切り、治水・利水の安全・安心の為、河川を搾取してきた経緯がある。今後は、既施設のきめ細かな管理運用による余力や社会情勢等により生じた余力等を積極的に河川環境の復元の振り向けるとともに、新たな河川環境の整備を目的とした事業展開の検討が必要と考える</p>
-----	----	---

(別添：意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名)	(市区町村以下)
		千葉県	柏市 [REDACTED]
③電話番号		[REDACTED]	メールアドレス [REDACTED]
④年代		60歳以上	⑤性別 男性
意見該当箇所		⑥意見	
章	頁	(できるだけ200字以内で記載)	
2			
2.1	22 ~	利根川と江戸川の堤防の断面不足、堤防の浸透に対する安全性の向上強化の必要箇所などはそれぞれ概ね40%、60%にのぼっていることが示されています。これらは主として河川の下流域に集中しているようです。優先かつ集中的に取り組むべき対策です。その必要事業費を含むロードマップもお示しください。	
&	24		
5			
5.1.1	46 ~	暫定豊水水利権の安定化の必要性に触れています。別項で記載のダム建設の必要性の議論に関係してきますが、現状でも実質的な不都合は発生していません。社会構造の変化を受け止める制度の手直しで対応できる課題です。	
1)	49		
2.2	26		
4			
4.1	41 ~	“目指す安全の水準は、(中略)年超過確率 1/70 から 1/80 とし、その水準に相当する河川整備の目標流量を基準地点八斗島において 17,000 m ³ /秒とし、このうち河道では計画高水位以下で 14,000 m ³ /秒程度を安全に流下させ、洪水による災害の防止又は軽減を図る”との記述があります。これは後段の八ツ場ダム建設の根拠となる記述ですが、現在有識者会議でその妥当性が議論されています。その議論の結果を反映した記述としてください。	
&	42		
5			
5.1.1		“流水の正常な機能の維持、水道用水及び工業用水の新たな確保および発電目的を目的とする八ツ場ダム”の建設が記載されていますが、洪水調節容量確保としてのダム建設が不要となれば、水道用水および工業用水確保の手段としてのダムの記述も当然不必要です。実際下流域の東京、千葉、埼玉、茨城等では基本的な水道用水の需給バランスは達成されており、大規模な事業費を投下して行う水源開発の必要性がないことは数値的に証明できます。国内産業の空洞化の情勢が展望される現在、工業用水が必要性というその根拠を示してください。	
(1)	57		
5.1.2		超過洪水対策として高規格堤防の整備を記述していますが、この事業の持つインパクトや事業費の大きさを考えると、あまりにも軽々しい記述です。国土交通省の官僚の皆さんの私人としての生活感覚と、職業人としての意識とはどのようなものなのか、空恐ろしい感じさえ覚えます。	
(4)	55		

5.1.3 (2)	58	<p>水系の自然環境の保全と洪水等による災害発生の防止や軽減の施策とは、むしろ対立する要素があるだろうと考えます。例えば河道の掘削は水性植物や生物を河道から遠ざける要因になるのではないのでしょうか？そのような観点から“～～利根川・江戸川における自然環境の整備と保全において、生物の生息・生育地の広域的なつながりの確保に努め、流域住民や関係機関と連携し、エコロジカル・ネットワークの形成を推進する。”という提案は意味のある提起だと受け止めています。是非その具体的な施策を進めてください。</p>
5.2.2	73	<p>“河川水の利用については、日頃から関係利水者等と情報交換に努める。また水利権の更新時には、水利の実態に合わせた見直しを適正に行う。”とあります。先に触れた暫定豊水水利権（P26）もそのカテゴリーに入るはずです。</p>
6		
6.1	77	<p>“流域全体を視野に入れた総合的な河川管理”を提案しています。これこそ目指すべき方向です。河川水を河道におしこめ、鉄壁の堤防で洪水を管理しようとするのは、実際には困難でしょう。雨水浸透、みどりのダムと称される水田の治水機能の組み込み、就中森林土壌による保水の効果なども考える総合治水の方向を、河川整備計画に取り入れてください。</p>
6.3	77	<p>八ツ場ダム地域においても「水源地域ビジョン」を必要に応じて策定するとの文言がありますが、古い伝統文化を育んできた地域が、ずり上がった新しい生活空間で再建を果たすには長い時間が必要でしょう。自然は50年後には再生するとしても、人はその時間に耐えられないでしょう。里山の自然は人がいて再生が可能です。地域の再生には疑問を呈せざるをえません。このような事業は公共の名に値しないものです。21世紀の谷中村を見る思いです。</p>
		以上

(別添：意見提出様式)

『利根川・江戸川において今後20～30年間で目指す安全の水運についての考え方ー「利根川・江戸川河川整備計画」における治水対策に係る目標流量についてー』に関する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都県名) 東京都	(市区町村名) 練馬区	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載して下さい)			
<p>何10年と必要とらるからダムを今更 張る必要もないし 自然 破戒は必ず おこるに 災害をせららし 海まで 移すことにはなる ことを考之 建設業界の 利益のための あるいは工事のために 税金を 使わないために 特色対 八ヶ場ダムの 計画中止を求めます</p>			

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 和光市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにてできるだけ200字以内で記載してください)	
2	35	<p>ダムは、地震に対して安全なのでしょうか。また、老朽化により決壊はしないのでしょうか。東北地方太平洋沖地震では、ダムが決壊したと聞きました。</p> <p>せっかくの住民の命や財産を守る施設が、逆に命や財産を奪うようでは、本末転倒です。</p> <p>ダムの調査や耐震診断を速やかに行い、必要であれば耐震化や老朽化対策に努めてほしいと思います。</p>	
4	41	<p>平成24年7月の九州の豪雨災害時のような雨が利根川で降るとどうなるのでしょうか。</p> <p>また、将来気候変動により、豪雨の強度や頻度が増えるとも聞いています。</p> <p>今回の整備計画の対象である利根川・江戸川は首都圏を流れており、人や財産、政治・経済の機能が集中しています。もし、ここで洪水が起こったら、多くの尊い命が失われる可能性だけでなく日本経済が壊滅的な被害を受けてしまいます。</p> <p>よく新聞やニュースなどで、ダムに反対する方々の意見を目にするのですが、目先のダム建設の反対にとらわれ長期的な視点、住民の安全を守るという観点が欠如した、一方的かつ感情的な主張にしか思えません。もし、災害が発生したら、彼らは責任を取るのでしょうか。一部の瑣末な意見で、肝心なことを怠ってはいけないと思います。</p> <p>行政として、国民を守るためにぶれずに施策を推進してほしいと思います。そのためにも、早急に河川整備計画を策定し、流域住民を守る河川整備を実施してください。</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]		
②住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 和光市	
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]		
④年代		40代	⑤性別	男性
意見該当箇所		⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
4	41	<p>気候変動による影響が顕在化している昨今、将来、これまで経験したことがない大洪水が起こらないと言い切れるのでしょうか。最低限、過去最大の洪水に対応できるような河川整備を行う必要があると思います。そのためにもまず、国が責任をもって今後30年の計画をしっかりと行ってください。</p>		
5	73	<p>水利権の更新時には、水利の実態に合わせた見直しを適正に行うとありますが、これまで建設したダムの建設費用は、水道の利用者である住民も負担しています。建設したダムの水利権は見直しをすることなく、許可すべきです。</p> <p>また、近年、利根川のダムの供給能力が低下していることや、気候変動が水資源に与える影響が懸念されていることから、水利権の更新時には、このような河川の実態を踏まえた見直しを行うべきだと考えます。</p>		

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 和光市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		30代	⑤性別 男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
4	44	<p>私は身近にある利根川に興味があり、今回の河川整備計画に対して意見を行うに当たり、利根川の歴史などをインターネットで調べました。その中で利根川の上流に建設中のハツ場ダムは、民主党政権時代に一度中止され、その後民主党が建設の継続を決定したことや、利根川の河川整備計画に対しては、ハツ場ダムに反対する方々が様々な意見をしていることが分かりました。私は、川の専門家ではないので基本高水の計算など詳しいことは分かりませんが、首都圏を流れる利根川が安全になるのなら、それに越したことはないと思います。また、政治に振り回されたハツ場ダム建設予定の方々の気持ちを考えると、一部の反対する人々の意見に拘らず、一日でも早くハツ場ダムを完成させるべきだと思います。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 和光市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	40代	⑤性別	男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
4	44	<p>先日、子供が浄水場の見学に行き、我が家の水は利根川から来ていることを話してくれました。水道水は、我々の生活になくてはならないものです。20年くらい前は、よく漏水が発生し、節水の要請が出ていました。水不足により、生活に不便が出ては困ります。</p> <p>この計画では、水を使う計画について述べられていますが、生活に支障が出るような漏水が生じないよう、利水の面にも配慮した計画の策定をお願いします。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 和光市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		40代	⑤性別 男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
4	41	<p>私は川が好きで、よく川沿いを散歩しています。川は私たちに憩いの場だけでなく、農業に使う水、生活に使う水などを与えてくれます。しかし、時として川は洪水などの被害をもたらします。最近、利根川で洪水などの被害が起きていないからといって、自然の猛威を忘れてはいけないと思います。</p> <p>今回示された河川整備を拝見したところ、流域にすむ住民の安全や生活を守る計画だけでなく、環境のことも考えた計画がなされていると考えました。一刻も早い計画の策定と、施策の実施をお願いします。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) さいたま市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	60歳以上	⑤性別	男性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
付図1	1-13	<p>意見1(付図1,付図1-13)</p> <p>資料1 利根川・江戸川河川整備計画(原案)付図計画諸元表付図1-13 渡良瀬川計画高水位は、利根川合流点の計画高水位と接続して計画されている。この渡良瀬川の計画高水位は、13km までほとんど水平である。この付図の終端付近に位置する藤岡水位観測所における観測水位を見ると、渡良瀬遊水地の調節池化による囲繞堤の建設によって、河川水位の動態が変化しているように見受けられる。河状の変化に対応することが必要と思量される。</p> <p>意見2(5.2.1(3)、59頁)</p> <p>渡良瀬遊水地は、調節池化することにより、渡良瀬川の流量が利根川本川の計画高水流量に影響を与えないものとする計画が引き継がれている。この機能を発揮するためには、固定した構造の越流堤防では困難であり、越流開始を制御する制水ゲート等の整備が必要と考えられる。洪水予警報技術の向上と相まって整備が行われるよう検討し、実施されることが望まれる。</p> <p>意見3(5.1.2(1),57頁)</p> <p>八ッ場ダムは、浅間山を流域とするダムである。今後も、浅間山の火山活動が継続することが懸念されている。現在においては、仮排水路は存置している状況である。仮排水路は、ダムの最も深い位置に存在しているものである。ダム上流の水位との関係において、浅間山からの土石流に対する対処方法を考えることによって、利根川全体の安全を向上させる方途を検討し、八ッ場ダム建設計画に組み込むことが望まれる。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

① 氏名		[REDACTED]	
② 所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) さいたま市見沼区
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		60歳以上	⑤性別 男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
全般		「意見1」 今回提案の「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」は、基本的には適正なものと考えます。 以下について、追加説明や今後の検討を望みます。	
4	44	「意見2」河川の適正な利用及び流水の正常な機能維持に関する目標については、流量の目標のみで、その安全度が明記されていません。現況説明で、度重なる濁水の説明がありますが、本整備計画では安全度をいくりにするか明記すべきです。そのうえで、 「異常濁水時において・・・流量の確保に努める」とは、濁水調整のことかと考えますが、整備期間中に利水量の見直し（後述されているが）を含め安全度確保（1/5）に向けた整備計画（ダムの有効運用、濁対ダムの建設等）の検討を行うことを明記すべきと考えます。	
5	51	「意見3」整備期間中に既存施設の機能増強は、奈良俣ダムと藤原ダムの容量振替だけでしょうか。新規ダムの建設が困難かつ既設ダムの有効活用の観点から、概ね50年を経過した多くのダムの既往洪水実績を踏まえて、各ダムの洪水調節方式を見直し、必要により利水容量も含めたダム間の振替を行うことを検討し、実施すべきと考えます。 整備計画期間中の洪水調節方式は、整備計画規模の洪水波形で但し書き操作も加味しながら下流河川に効果の出る方式にすべきと考えます。	
5	68	「意見4」ダムの維持管理のうち、堆砂対策については、ダム計画堆砂100年後をどのように対応するか、利根川ダム群は、すでに50年を経過したダムが多く、整備計画中にその対策を確立し、順次対策に着手すべきと考えます。ダムは100年で寿命、ではありませんから、同時に対策することは予算上から不可能と考えられ、道路トンネル等の例を見るまでもなく、この段階で抜本策と工程を確立すべきと考えます。	
5	69	「意見5」表5-20に渡良瀬貯水池を含めるべきではないでしょうか。 渡良瀬貯水池が利水補給ダムとして位置付けられていることが計画書では見受けられません。利水統合管理のかなめとして重要と考えます。	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>「全体について」……ハツ場ダムはいらない、……</p> <p>①首都圏の水需要は減少の一途を辿っていると報じられている。しかも今後人口が首都圏でも漸減傾向に変わるので、水需要の減少傾向は続き、ハツ場ダムの必要性はますます失われる</p> <p>②ハツ場ダムがあったとしても、その効果はゼロであった。過去の資料でも明らかになっていること。それ故、利根川の治水対策上ハツ場ダムはほとんど意味がないといわれている。</p> <p>しかも、ハツ場ダム予定地は地質が脆弱で、ダムを造れば地すべりを発生する危険性が高いこと。</p> <p>③従って、「利根川・江戸川河川整備計画(原案)」からハツ場ダムを削除し、流域全域について必要な調査を行い、それぞれの状況について知見を有する住民及び専門家の意見が反映されるよう議論を積み重ねていくよう、要望します。</p>	

[/]

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 松戸市	
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
4		<p>●安全の水準について</p> <p>カスリーン台風という大災害を被った関東地方については、一日も早くカスリーン台風規模の洪水流量に備えるべきであるが、今後20～30年という短い期間では年超過確率を1/70～1/80とすることは致し方なく、その流量を17,000m³/sとすることも妥当であると考えます。</p>	
4		<p>●堤防の耐震性について</p> <p>利根川・江戸川の堤防は幾度と重ねられてきた築堤工事により堤体強度が均一ではない。東日本大震災で明らかになった2000箇所にも及ぶ堤体の崩壊と同様なことが0m地帯でも起こることを考慮すべきである。0m地帯における「地震洪水」という現象を災害発生の要素として位置づけるべきである。</p>	
4		<p>●超過洪水対策について</p> <p>計画規模を上回る洪水や高潮対策として高規格堤防が持つ避難高台としての位置づけを明確にすべきである。高規格堤防は江戸川の最下流部(0m地帯)においては連続性を有する堤防という機能よりも、避難高台地としての意義の方が高いと考える。ここでは経済性の論理としてのB/Cでは比較考量できない“人命”が対象であるからである。</p>	
4		<p>●河川環境について</p> <p>河川環境計画については概ね妥当と考えますが、特にエコロジカル・ネットワークの形成については河川空間だけでなく、その流域全体で保全されるべき森林、水田、低湿地帯、ひいては居住区域も含めた保全計画が必要と考えます。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 松戸市	
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
頁			
5	<p>●洪水対策について</p> <p>流域全体の洪水対策については上流部における「ダム」、中流部における「遊水地」、下流部における「河道」それぞれが機能を保管し合って保たれるべきである。その点で八ッ場ダムの完成の遅れは流域全体の治水安全度を著しく脅かしている。一日も早く完成させ洪水調節流量を確保すべきである。</p>		
5	<p>●危機管理対策について</p> <p>大規模河川の洪水は一旦発生すると流域全体に甚大な被害を及ぼす。現在の災害対策は流域自治体が、其々独自の判断で対策を講ずる事になっている。これでは流域全体の人命と産業経済を守る事は出来ない。「洪水は流域管理」という概念で河川管理者が統一した指揮命令権を有すべきである。</p>		
	<p>●全体について</p> <p>地球温暖化による気候変動は既に現実のものとなっている。世界中の国々が温暖化による降雨量の増大、河川洪水流量の増大を考慮した河川計画に修正している。アメリカ、ヨーロッパ諸国、東アジア諸国の例を見ても日本の温暖化に対する対応は例外的である。数年前に行われた OECD の日本調査団の指摘を待つまでもなく、温暖化による気候変動を、河川整備計画に織り込むべきである。</p>		

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 川口市 [Redacted]
③電話番号又はFAX		[Redacted]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
全 体 に 関 し て 述 べ ま す		<p>反対。</p> <p>1947年カスリーン台風で利根川水害時、八斗島流量、17,000^{m³}/秒は実際は15,000^{m³}/秒であり、当時の建設省の資料で明らか。このように誤った数字による建設計画はとんでもない!!</p>	

[/]

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 太田市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにとできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>(全体として)</p> <p>1. 関東地方整備局の河川整備計画原案の八斗島地点での治水目標流量 17,000 m³/秒は過大な基本高水流量 22,000 m³/秒を算出した流出計算モデルから算出したもので、八ッ場ダムありきの策定で過大かつ科学的根拠はありません。</p> <p>2. 1998年9月の洪水について、岩島地点での観測流量から八斗島地点での八ッ場ダムの水位低減効果を計算すると 13cmしか上がりません。この洪水の最高水位は堤防天端から 4mも下にあつて、治水効果はほとんどありません。</p> <p>3. 社会インフラの維持管理・更新費は 2037 年度には社会資本投資可能額に達してしまうことが確実です。河川予算を利根川・江戸川の河川改修に充当するのも限度があります。ダム建設でなく、脆弱な堤防の補強工事や内水氾濫対策や耐越水堤防の補強工事に予算を優先すべきです。</p> <p>4. 1都5県の首都圏の水需要は減少続けています。今後は人口減少が急激に進行し、節水型機器の普及などにより、水使用量は益々減少しますので、利水事業の削除を求めます。</p> <p>5. 八ッ場ダム予定地は地質が脆弱で、大雨による土砂流出による崩落事故たびたび起きています。ダムの湛水による地すべり災害が高まりますので、住民の生命と財産を守るために、八ッ場ダム事業を河川整備計画から削除を求めます。</p> <p>6. 品木ダムの汚泥処理と埋め立て処分場を未来永劫続けることは、利根川水系の環境汚染に甚大な影響と被害をもたらす可能性が高くなりますので、八ッ場ダム事業を河川整備計画から削除を求めます。</p> <p>7. 利根川流域の自然や流域住民の生命や財産を洪水被害や環境汚染から守るために、将来に大きな禍根を残さないように、八ッ場ダム事業を河川整備計画から削除を求めます。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 京都府	(市区町村名) 宇治市 [REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		60歳以上	⑤性別 男性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
1	4	人口増減の傾向を明らかに見誤っている。	
1	5	就業者数の推移を明らかに見誤っている。	
1. 2	6-11	過去の洪水流量の検証が不十分であり、誤っている。	
1. 3	14-19	水資源量と土地利用・人口配分に関してミスリーディングな記述である。	
1. 4	20-21	ダム建設による環境悪化に触れないのは悪意に満ちたねじ曲げである。	
2	22-36	抽象的なスローガンは耳障りがよいが、住民意見に耳を塞ぎ、行政サイドからの見方に終始している。	
4. 1	41-43	目標安全度(1/70~1/80)の設定根拠が曖昧である。目標流量を超える洪水に対してどのように対処するか、全く記述されていないので、河川整備計画の体をなしていない。	
5	46-51	河道整備を行った結果としてどうなるかが全く分からない。目標流量との関係もわからない。	
5	52	八ッ場ダムの上水道利用は首都圏への人口集中の緩和に逆行する。発電利用は必要がない。治水専用でないことも原因して治水効果が希薄である。それに対して、湛水域の地すべり対策が未検討であり、ダム建設を前提として河川整備計画を立てること自体が間違いである。地すべり対策が終了するまでは八ッ場ダムの建設計画を白紙に戻すべきである。そうしないと、災害を防止する八ッ場ダムか、災害を惹起する八ッ場ダムなのか、わからなくなってしまう。	
5	55	超過洪水対策 記述が曖昧で、本河川整備計画によって、超過洪水に対してどういう効果があるのか、全く分からない。河川整備計画の体をなしていない。 「必要に応じた対策を実施する」ことは必要であるが、何が必要で、どういう対策を実施するかを具体的に示す必要がある。	
5	57-58	「流水の正常な機能の維持」と「河川環境の保全」のために、ダムをつくらないという選択肢を掲げるのが当然である。	
5	68-69	維持管理するダムのリストから外れている八ッ場ダムは当然建設すべきではない。河川管理者が流域住民に具体的に約束するものが何もない。したがって、流域住民がこの河川整備計画に賛成すべき理由は皆無である。	
全体			

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]	
②住所		(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]	
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代	60歳以上	⑤性別 男性 <input type="radio"/> 女性 <input checked="" type="radio"/>
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>ハツ場ダムありきの河川整備計画は認められません。項目ごとではなく<u>全体的な意見</u>を述べます。</p> <p>この数年來、ハツ場ダムに関心をもって、資料にあたり、現地も訪ねました。群馬の友人の母上も、この工事の群馬県の政治家の政争の具にもなっていたこともありました。</p> <p>美しい渓谷、温泉、周辺環境、これ、吾妻川の水質の問題、地質の弱さ、不審材料と課題をクリアするため50年の年月を費し、本体工事に入らない事業は普通に考えてもおかしいです。</p> <p>私は50年以上取手市に住み、この頃より利根川の流れをみてきています。群馬の雨の濁流とが、一気に瞬間的に押しよせるのを最近みています。雨は極地的に分散され、変わってきています。</p> <p>ご存知のように人口は、10-15年ほど減り続け、利水のみでも不必要です。市内には利根川の自然を享受、運動を地道に続けている人、環境も大切にしている様々な団体もあり、流域市民の多くの声をくみあげ、時間をかけて、日本の風景、環境を保全する整備計画を練ってください。</p> <p style="text-align: right;">2013. 2月26日</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①	氏名	[REDACTED]		
②	住所	(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 小美玉市	
③	電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④	年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・ <u>60歳以上</u>	⑤性別	男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)		
		<p>1 有識者会議の完結が最低限の条件</p> <p>計画案は有識者による議論を経て策定されなければならないが、殆ど議論されることなく打ち切られた。したがって、有識者会議によって承認された計画案と認めることはできない。有識者会議を継続し十分な議論を尽くすべきである。</p> <p>2 利根川水系全体の河川整備計画を策定すること</p> <p>河川整備計画は、利根川水系河川整備基本方針と整合性を保ちつつ策定されなければならない。しかし、当該原案は対象が利根川・江戸川に限定されており、その妥当性を判断する段階には至っていない。水系全体について策定を進め、有識者会議で議論を尽くし修正を加えたいうえで改めてパブリックコメントへの応募を呼びかけること。</p> <p>3 目標流量および治水安全度設定について</p> <p>昭和22年台風時の流量で議論が進められてきたが、以後、現在までに流出に係る環境が大幅に変化している。治水安全度だけを取り上げれば治水安全度は、高ければ高い程良い。しかし、それは財政負担と環境、生態系、生物多様性の損傷という負の代償をともなうものであるから過大な見積もりは許されない。官民双方の科学者で構成した委員会を立ち上げ妥当な流量を決定し、再検討されたし。</p> <p>4 生物多様性基本法を順守すべし</p> <p>治水対策としてダム建設や河道掘削が計画されているが、その生態系、生物多様性への影響評価と影響緩和策がどこにも見当たらない。特に絶滅危惧種IB類に指定されたウナギへの配慮が欠けている。利根川水系のウナギは、太平洋ウナギの資源添加に大きな影響を与える。妥当な対策が盛り込まれない場合には、利根川水系の河川整備計画の不備により太平洋ウナギの絶滅を引き起こす危険性すらある。各種水生動物の生活年周期に配慮した河川流量の維持管理が必要である。生物多様性保全は、国家の義務であることは生物多様性基本法に明記されているところであるので原案のままでは違法となる。</p>		

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[REDACTED]		
②住所	(都道府県名) 千葉県	(市区町村名) 石公戸市	
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代	60歳以上	⑤性別 男性 <input checked="" type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/>
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
<p>「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画の原案」について、以下の観点で反対します。</p> <p>まずひとつには、自然に優しい河川整備計画という発想が徹底的に不足しているという点です。</p> <p>かつての利根川はウナギの遡上する豊かな川でした。それが常陸川水門や利根河口堰建設の影響もあって、最盛期には約1000トンに達し全国の30%を占めていたウナギの漁獲量が、2010年にはわずか16トンという、なんと最盛期の0.5%に減少したのです。それと並行して全国のウナギの漁獲量も1961年の3387トンから、どんどん減少し2010年には286トンになってしまい、とうとう絶滅危惧種に指定されてしまったではありませんか。</p> <p>利根川水系のウナギの漁獲量とダム建設累積数は、高い相関関係が認められます。1970年前後に始まった7水系の水源地開発により、ウナギの漁獲量は確実に減少しているのです。ダムによるウナギ漁獲量減少率は、15%/基といわれています。ダムが1基出来ると、ウナギが15%減るといわけです。1967年の698トンのピーク漁獲量が、年率7.5%で減少を続けて、とうとう16トンになってしまったのは、巷間言われていたような乱獲のせいではなく、ダム建設のせいだったのです。</p> <p>最近の研究で、ウナギの産卵場所がマリアナ海峽付近であることがわかりました。</p> <p>ウナギは5、6歳で成熟し、産卵のために降海し、小笠原海溝沿いに南下して、マリアナ海嶺南端付近で6月から9月に産卵するというのです。そのウナギの産卵回遊のスタート地点が利根川なのですから、利根川のウナギの漁獲量が16トンになってしまったということは、日本全国のウナギ資源に大きく関わることなのです。</p> <p>利根川水系利根川・江戸川整備計画を策定するには、利根川のウナギが減少した原因を明らかにし、その対策を含めた計画にしなければならないと思います。</p> <p>次に、今回の原案の欠点は、策定計画が利根川・江戸川の本川のみを対象としているところにあります。利根川水系には渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦など大きな支川がいくつもあり、それらの支川も含めて水系全体の河川整備計画を策定しなければ意味がありません。普通に考えて、本川とそこに流れ込む支川は相互に関係しているのですから、両者を切り離して、本川だけの整備計画を先行して策定することは、ありえないことです。前に支川5ブロックに分かれて、有識者会議を開き、整備計画を策定した時のように、今回も支川を含めた利根川水系全体の整備計画を丁寧に策定すべきと考えます。ほかにも問題点が山積していますが、この二点だけでも、原案を支持することはできません。有識者会議での意見や流域住民の声を十分に取り入れて、整備計画を再考してください。</p>			

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 群馬県	(市区町村名) 高崎市	
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代	60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所	⑥ご意見		
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>全体について</p> <p>1. 首都圏の水需要は減少の一途です。このことから場 場は必要ない</p> <p>2. ハン場ダム予定地は地質が脆弱でダムをくれば 地割りの検証が高くつく必要はない</p> <p>3. 巨額の費用を要するダムは税金のムダ使いである</p> <p>4. ムダな公共事業に多額の税金使わなくて ほしい</p>	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名	[Redacted]		
②住所	(都道府県名) 埼玉県	(市区町村名) 川口市	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]		
④年代	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別	男性 <input type="radio"/> 女性 <input checked="" type="radio"/>
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>全体について、 スーパージェット防は莫大費用と期間 を用い、今更にも危険な河は 新しい技術(ニトパイルとソイルセメント) で連続の中壁を作る 工事を着工すべきで 原案には反対可。</p>	

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) かすみがうら市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・ 60歳以上	⑤性別 男性 ・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 今回の原案は利根川・江戸川の本川のみを対象としています。しかし、利根川水系には渡良瀬川、鬼怒川、霞ヶ浦など、大きな支川がいくつもあり、それらの支川も含めて、水系全体の河川整備計画を策定しなければならないと考えます。支川と本川は相互に関係しており、特に支川の状況が本川に影響するので、両者を切り離して、本川だけの整備計画を先行して策定することは、科学的見地から見て、あつてはならないことではないでしょうか。今回の原案を撤回して、水系全体の河川整備計画の策定作業を進めることを求めます。 ▪ 9月から10月に開かれた利根川・江戸川有識者会議では、治水目標流量17,000 m³/秒（八斗島）について根本的な疑問が提起され、治水安全度1/70～1/80で対応する流量は実際には17,000 m³/秒よりかなり小さいことが明らかになりました。利根川・江戸川有識者会議で治水目標流量の議論が行われている最中にあるにもかかわらず、その議論を一方向的に打ち切って、科学的根拠が希薄な17,000 m³/秒を前提とした河川整備計画原案を示すことは断じて許されることはありません。 ▪ 2月14日開かれた同有識者会議においても、「大熊孝・新潟大名誉教授は『いきなり17,000 m³/秒を出されても賛同できない』と反発。前回までと同じく、拓殖大の関良基准教授とともに、目標流量の値を妥当とする小池俊雄・東京大大学院教授と激論を交わしたが、かみ合わなかった」「会議後、大熊名誉教授と関准教授は会見し、有識者会議の進め方を批判する公開質問書を連名で太田昭宏国土交通相らに提出したと発表した。」【東京新聞2月15日付】との報道があります。従って、治水目標流量の議論を続行することを求めます。 	

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[Redacted]					
②住所		(都道府県名) 東京都			(市区町村名) 八王子市		
③電話番号又はメールアドレス		[Redacted]					
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上				⑤性別 男性・女性	
意見該当箇所		⑥ご意見 (意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)					
章	頁	巨額の費用を要するスーパー堤防は治水対策として有効ではなく、自然破壊につながるだけ。 減少する一途の首都圏の水需要を口実に自然をこわし、ムクナダムをつくるのはやめるべき。					

(意見提出様式)

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

①氏名		[REDACTED]	
②住所		(都道府県名) 茨城県	(市区町村名) 取手市
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]	
④年代		20歳未満・20代・30代・40代・50代・60歳以上	⑤性別 男性・女性
意見該当箇所		⑥ご意見	
章	頁	(意見ごとにできるだけ200字以内で記載してください)	
		<p>1) 首都圏の水余りは年々多大となり、茨城県はその筆頭とも言うべき状況です。もう一つの事業目的の治水についても、下流ほど効果は低減し、取手市周辺では水位低減は数cmに過ぎない。莫大な税金を注ぎ込みながら（高い水道料金を押し付け）かくのごとく無用で無駄、しかも自然破壊・危険をもたらす八ツ場ダム建設の中止を求める声は、関係自治体のみならず広く国民の中で多数です。八ツ場ダム事業を利根川水系河川整備計画原案からの削除を求めます。</p> <p>2) 2006年、利根川水系河川整備計画策定にあたり、関東地方整備局の担当課長は「有識者会議および関係住民の意見・意向を十分反映した計画とするために、議論を積み上げ計画案を策定する」と約束しました。これを守ることは同整備局の責務です。 ダム建設に固執することなく、ひろく知見を集め、関係住民合意のもとで環境・自然にやさしい河川整備計画を策定することを求めます。</p>	

「利根川水系 利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する意見

- ①氏名 [REDACTED]
- ②住所 東京都 多摩市
- ③電話番号 [REDACTED]
- ④年代 60歳以上 ⑤男性

意見該当箇所
章 頁
4.1 41

[意見]

原案が前提とする、国交省の流出モデルによる治水目標流量 17,000 m³/秒は過大である。

[理由]

国交省は、1947年カスリーン台風の計算流量は 21,000 m³/秒で観測流量は 17,000 m³/秒としているが、そうすると両者の総流量差 1億 m³が溢れたことになる。しかるに、洪水痕を現地踏査で調べた氾濫量は 1千万 m³程度にすぎない。

国交省の流出モデルでは過大な計算値となるのは、森林成長による保水力向上を無視しているからである。